

# ひとのチカラ

## 輝創 情熱

このコーナーでは、夢に向かって情熱を持ち続けながら、明日の薩摩川内市を創る、元氣人、輝き人のこれまでとこれからを紹介します。

第6回は、竹内 智子さんです。



**竹内 智子** (たけうち ともこ) 1978年 京都府生まれ。立命館大学卒業後、滋賀県に移住。2年後大手旅行代理店に就職。営業部門に従事し、主に修学旅行関係商品を担当。2010年6月から、本市雇用創造協議会ぼつちゃん計画マネージャーとして従事。夫と離れ下職に単身赴任中。33歳。

### 甌島との出会い

「正直『甌』という漢字をどう読むのかわからず、パソコンで『こしき』と読むことを知ったんです」と照れくさそうに笑った。  
大学で地域振興を専攻し、福祉や観光などの施策や取り組みが地域に及ぼす影響について研究した。思い込んだら一直線の性格。それは学問でも恋愛でも同じ。プライベートでは学生時代に現在の夫と結婚。卒業して約2年間は、主婦業に専念した。その後勤めた旅行代理店での営業の仕事。前々から地域を元気にできるような仕事に携わりたいと思っていた。同代理店に勤めたのもその思いからだ。2年前の春。夫が出張先から持ち帰った雑誌を見ていて、偶然「甌島」と出会った。現プロジェクト(ぼつちゃん計画)スタッフの募集記事だった。「現地でがむしゃらにやってみよう」と自分自身が探し求めていた何かが見える気がする。

「そう直感した。単身で現地に飛び込むことへも迷いはなかった。強引な相談に応じてくれた夫と会社に感謝しながら。」  
※1 地域と連携し持続可能な生産雇用サイクルをつくり、地域の魅力をまるごとブランド化し、全国に売り込むという計画

### 人に恵まれて

島に着任して最初に感じたことがあった。地理的なことも関係するのかもしれないが、島全体で実施するイベントや行事がない。島民全体を巻き込んで何かできないか。また、戦略として、外に向かって発信するのか、こちらに呼び込むのか。2年間で結果を出さなければならぬ時間的制約もある。潮風の香りや風光明媚な情景、人情豊かな島の人たち。自分が肌で感じたことを、外の人にも一度肌で感じてほしい。著名な九州の離島に敵わないものもあるが、この島にしかない良さもある。「訪れてもらえば、リピーター率は高い」この地に体ひとつで飛び込んだ自分が一番知っている。悩んだ末、たどり着いた答えが、アクアスロンだった。「スポーツ競技なら応援する側も分かりやすいし、誰でも親しみが持てるのではないかと考えた。それからは、日本トライアスロン協会(JTU)の公認コースをとるために奔走した。行き詰まり、前職場の上司に意見を求めたこともあった。熱意が伝わり、協会担当者も親身に対処してくれた。思えば、島の人が、3人いる計画室のスタッフ、自分をここに導いてくれた人たち。「自分はいつもすばらしい縁と人に恵まれて仕事をさせてもらっている幸せ



者だ」と自負する。秋も深まりを見せ始めた10月28日、104人のアスリートたちが手打の海を泳ぎ、海岸を眺むコースを駆け抜けた。島内6集落から150人を超える人が、ボランティアスタッフとして準備段階から選手をサポートにつき、大会運営を陰で支えてくれた。会場と選手と大会スタッフそれぞれに絆が生まれ、ひとつに繋がった結果だった。自分たちは、スポーツイベントという仕掛けを促しただけ。島の人たちにも達成感と自信が生まれていた。当初掲げた島民総ぐるみのイベントとしてのカタチが見えた気がした。

大会後、島内の食堂や寄り合いの場で、来年度の大会が話題となっている場面を目にした。島民同士の間でそのような会話が飛び交う光景が嬉しかった。「やってよかった」島の歴史や島民同士のしがらみ。着任してから、がむしゃらに走り続けて来た。懸命にゴールを目指す選手たちの姿とも重なった。目指すは2020年に開催される鹿児島国体の公認競技地。次のレースへ向け、もう駆け出している。

※2 トライアスロンは水泳、自転車ロードレース、長距離走を続ける競技。アクアスロンはこの内、自転車ロードレースを除いたもの

次回は「祢地山の田の神(樋脇町)」を紹介いたします。



東郷人形(大黒)



東郷人形(静御前)

\*東郷人形は、川内歴史資料館に保管されています。



【問合せ】=教育委員会文化課 ☎(23)5111(内線5233)

# そこが知りたい! 歴史散策シリーズ

第6回 小路磨崖仏と東郷人形

知っているようで知らない薩摩川内市に点在する文化財をクローズアップ!!

今回の歴史散策シリーズは、東郷町の文化財に焦点をあてて紹介します。

### 小路磨崖仏

磨崖仏とは、岩壁などに直接彫りこまれ、自然と一体化した仏像のことです。

東郷町斧淵にある小路磨崖仏は、渋谷東郷氏の居城であった鶴ヶ岡城跡に彫られており、岩壁を円形にくりぬいた中に仏像が刻まれています。頭の上には「阿弥陀如来」を表す梵字(インドで使用される文字)が刻まれています。手は左手の上に右手を重ね、両手の親指の先を合わせて他の指は伸ばす「法界定印」という印を結んでいます。

このような手つきをした磨崖仏は全国でも珍しく、貴重な文化財のひとつと言えるでしょう。



磨崖仏の彫られている崖面



梵字 キリク  
法界定印

小路磨崖仏

### 東郷人形(東郷の土人形)

かつて、初節句の子どもの健やかな成長を祈って親類縁者が初市中の京都の伏見人形(後に日本各地で作られる土人形の原型)を買い与える習慣があったそうです。その影響で、鹿児島でも土人形の製作が盛んとなり、東郷のほか、帖佐や垂水、宮之城などでさまざまな土人形が造られました。

東郷人形の成立時期は、正確には分かっていませんが、昔から地元でとれた粘土を、石臼や手でこねて型を造り、窯で素焼きにしています。着色は素焼き後におこなわれ、鮮やかな色が塗られるのが特徴です。

昭和4年に最後の人形師(職人)が亡くなったため、その製作は途絶えてしまいました。昭和49年、山口忠正氏の手によって、その技術が解明され、東郷人形は復活を遂げます。毎年夏に東郷公民館で開催される親子を対象にした製作体験講座で自分だけの土人形を造ってみませんか。